

わんにゃん通信 2022.9月号

秋になろうとしているのにまだまだ暑い今日この頃です。

未だにエアコンがある生活から離れられそうにありません…

早く涼しくなって過ごしやすくならないかな…

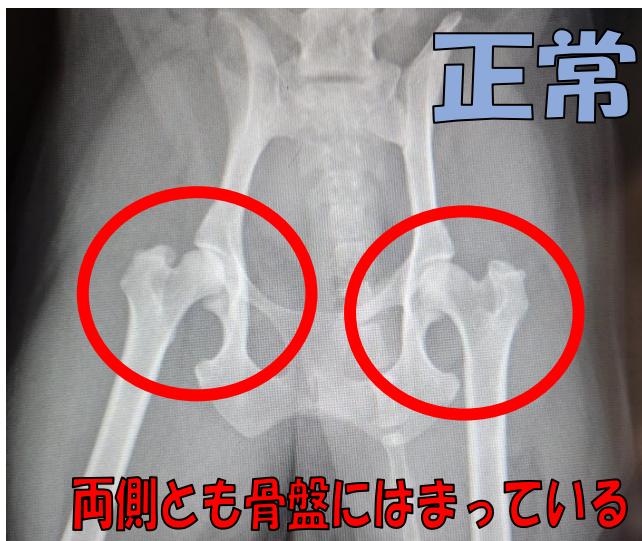
今回は股関節脱臼のお話です。



股関節脱臼とは？

股関節脱臼は主に落_下、動物同士のけんか、交通事故などにより瞬間的に強い外力が加わることによって引き起こされます。

下肢に加わる強い外からの力によって股関節の可動制限を超える負荷がかかり、大腿骨頭と窓骨臼（大腿骨頭の受け皿となる骨盤のくぼみ）を繋ぐ靭帯の断裂と、股関節の関節包（潤滑剤の役割をする滑液を溜めて関節を覆っている線維性の膜）の破裂が起こり、窓骨臼から大腿骨頭が突出することで脱臼します。激しい痛みを伴い、足を引きずるような歩行障害が顕著に現れます。



両側とも骨盤にはまっている



股関節脱臼の治療は？

麻酔下で脱臼を整復を行います。整復後、関節の安定化・不動化を目的に包帯による固定をし、固定した状態で1~2週間を経過観察をします。再脱臼を繰り返す場合は外科手術を行う場合もあります。



整復後に大腿骨頭を支える靭帯が元通りに修復するものではないため、少しの力・不意の力でも再脱臼してしまう可能性があります。そのため、包帯固定解除後も後肢に過度の負担がかからないようにする運動制限や体重の管理が必要になります。

院長のコラム

犬では以前は交通事故や落下により股関節が脱臼する場合がほとんどでしたが、最近ではプードル、ポメラニアンなど何の外傷もなく脱臼する症例が増えてきました。症例にもよりますが整復してテーピングをしても手術をしても元に戻らない症例が少なからずいます。この場合、手術せずに保存療法でいくか、もしくは、今後に痛みを残さないように大腿骨の関節を切除する骨頭切除術が選択されます。手術が適応かどうかの判断は非常に困難です。